

BUSINESS STRATEGY

事業戦略

Contents

- 48 メディカル・ヘルスケア事業
- 50 スマート事業
- 52 セイフティ事業
- 54 マテリアル事業
- 56 エンジニアリングプラスチック事業

Medical / Healthcare

メディカル・ヘルスケア事業



事業内容

ライフサイエンス事業は、医薬品の開発や製造過程などで光学異性体を分析・分取するために用いられ、当社が世界的に高いシェアを持つキラル（光学異性体）カラム※1の製造販売や受託分取サービスなどを行っています。また、バイオ分野への事業領域拡大にも取り組んでいます。ヘルスケア事業（コスメ事業・健康食品事業）では、人々のQOL※2向上への貢献を目指し、高品質な化粧品原料、海洋生分解性のある酢酸セルロース真球粒子（BELLOCEA®）や、天然素材から抽出技術・バイオ変換技術を用いて生み出されるユニークな機能性食品素材を展開しています。

※1 光学異性体を分離するクロマトグラフィー用カラム（薬として有効な成分の分離などに用いる） ※2 QOL…Quality of Lifeの略で、物理的な量かさだけでなく、精神面も含めた生活の質のこと

主要な事業	主要な製品
ライフサイエンス	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、新規投与デバイス
ヘルスケア	化粧品原料（ポリグリセリン、ポリグリセリン誘導体、酢酸セルロース真球粒子（BELLOCEA®）など）、機能性食品素材（フラボセル®、ウロリッチ®、アストロホップ®、こんにゃくセラミド、ラクトビオン酸など）

ダイセルグループの強み

【ライフサイエンス事業】 光学異性体分離技術のリーディングカンパニー	キラルカラムを1982年に事業化して以来長年培ってきた分離技術と、製薬会社や研究者とのグローバルに広がるネットワーク
【ライフサイエンス事業】 特徴ある医療関連材料事業	優れた機能を持ち、医療用材料として使われるポリプラスチックのPOMやCOCと、ライフサイエンスSBUの針のない新規投与デバイス「アクトランザ®ラボ」など、グループ内にある医療関連事業間のコラボレーションにより事業シナジーを推進
【ヘルスケア事業】 ユニークな製造技術	コスメにおいては、副生物が少なく水溶性が高い、無色・透明なポリグリセリンを製造可能。また、健康食品においては、独自の嫌気発酵技術※を活用し、人によっては体内で作り出せない腸内代謝物をバイオテクノロジーで製造 ※ 酸素がない状態での発酵技術

認識している事業環境

機会	リスク
■ 新型コロナウイルス感染症ワクチンに端を発する新しい遺伝子医薬品・ワクチン開発の活発化 ■ アジア地域の化粧品市場の成長、インバウンド需要の回復 ■ 化粧品業界でのバイオマス・生分解性原料需要の高まり ■ 健康志向の高まりによる高機能健康食品市場の成長	■ 中国経済の不透明感 ■ 米国における科学研究予算の削減、医療政策変更による医薬品産業への影響 ■ ヘルスケア製品における、新素材への置き換え

業績ターゲット、設備投資額・減価償却費

2024年度実績				2025年度計画※			
売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費	売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費
144億円	3億円	9億円	11億円	155億円	3億円	15億円	10億円

※ 2025年度計画には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

はじめに	ダイセルグループの強み	ビジョンとマテリアリティ	事業戦略	持続可能な成長を支えるガバナンス	資料
------	-------------	--------------	------	------------------	----

事業環境と中期戦略の進捗

■ ライフサイエンス

当社グループは、世界トップシェアを誇るキラルカラムを中心とする光学異性体分離事業を、日本・米国・フランス・中国・インドの各拠点を中心に全世界で展開しています。キラルカラム関連事業は堅調に推移し、特にジェネリック製薬市場の成長が旺盛なインドや中国においては、低分子医薬分野で光学異性体の分析・分取に使用されるカラムの販売に加え、製薬企業のニーズに対応した受託分取・精製、合成サービス事業が伸びています。これらサービス事業は低分子医薬に加え、次世代薬として期待されるペプチド医薬や核酸医薬など中分子医薬にも対象領域を拡大し、さらなる事業の発展に取り組んでいます。

また、足元では、高分子医薬領域であるDNAやmRNAワクチンの投与に適した新規投与デバイスの社会実装に向けて薬事承認やマーケティングを強化しています。本デバイスは、当社のセイフティ事業で蓄積したONE TIME ENERGY®のコントロール技術を活かし、針を用いることなく薬液を特定の組織内に高速ジェット流で送達します。従来の注射器では難しい精密な深度コントロールにより、免疫細胞の多い皮下へ効果的に薬液を届けるだけでなく、薬液を細胞内まで届けることで効果的な遺伝子発現が期待されます。まずは、既に大きな市場規模を獲得している皮下用薬剤の投与デバイスとしての国内での医療機器承認を目指し、2025年2月に日本で皮下投与用デバイスとしての薬事申請を行っています。国内で早期に実績をつくり、将来的には先端医療の中心である欧米での海外展開に向け、体制整備を進めていきます。

分離・精製技術と組立加工技術を用いた、再生医療領域（エクソソーム）への参入



エクソソームの自動精製装置

医療・医薬品関連市場は低分子から中・高分子医薬を経て、近年では遺伝子治療や再生医療市場が急速に成長しています。当社では、細胞から分泌される小胞で、細胞間の情報伝達に重要な役割を担い、様々な疾患の診断や治療への応用が期待されるエクソソームに焦点をあて、エクソソームの自動精製装置の開発に取り組んでいます。これは、当社の強みである分離・精製技術と組立加工技術を組み合わせたものであり、iPSに次ぐ再生医療技術として期待されるエクソソームの今後の拡大に注目しています。2025年度には展示会にて試作品の展示を行うなどマーケティング活動を進めながら、同年度中に研究開発用途での市場展開を目指します。

事業環境と中期戦略の進捗

■ ヘルスケア

当事業は次世代育成事業として、既存製品による収益の基盤強化と新規素材の創出に注力してきました。結果、化粧品原料・健康食品素材共に好調なインバウンド需要を捉え、足元の販売は堅調に推移しています。特に、主力製品であるポリグリセリン（不純物が少なく無色・透明かつ水溶性が高いため、化粧品向けの高機能な界面活性剤の原料として品質・外観共に高い評価を受ける）や、フラボセル®（機能性成分：エクオール、女性ホルモンの一種であるエストロゲンに近い動きをする機能性食品素材で、更年期の女性の体と心をサポート）の販売が伸長しました。

また2024年度には3つの新規製品を上市しました。生分解性を持つ酢酸セルロースでできた化粧品用感触改良剤BELLOCEA® BS7は、化粧品によるマイクロプラスチックピーズ問題を解決する代替素材として注目が集まっています。P-PGLE MO04/MO06（オレイン酸ポリグリセリル）は、増粘剤なしでとろみを付けられる界面活性剤としてメイクのクレンジング用途に適しています。健康食品素材では、アミノ酸の取込を促進し筋萎縮を抑制する可能性を持ち、サルコペニア※1の予防などの効果が期待できるアストロホップ®（機能性成分：8-ブレニルナリンゲニン、以下8PN）を上市しました。

今後は旺盛な需要を取り込んだフラボセル®の拡販を中心に、化粧品原料ではさらなるサステナブル素材の創出による製品ラインナップの拡充、健康食品素材では腸内代謝物を軸とした新製品の開発・販売促進により、収益の柱となる事業の育成に注力していきます。

腸内細菌ライブラリーと嫌気発酵技術を活かした「アストロホップ®」で、Better Aging®に貢献

当社の持つ腸内細菌ライブラリーの豊富さと、独自の嫌気発酵技術を活かして2024年度に上市したアストロホップ®は、ホップに含まれるキサントフモールを、特定の腸内細菌と酸素のない環境下で発酵させた製品です。本来は人の腸内で作られる8PNという腸内代謝物をタンク内で効率的に製造しています。8PNは加齢に伴う筋萎縮の抑制、筋量の回復促進、アミノ酸の取込促進などの機能が期待できる健康食品素材です。少量でも機能性を発揮するため、サプリメント、飲料や食品など様々な形態に配合しやすい上に、継続して摂取することにより全身にいきわたり、さらなる機能性が期待できます。



8PNの原料となるホップ

日本の高齢化率は増加の一途を辿っており、平均寿命と健康寿命の差は男性で8.48歳、女性で11.64歳です※2。また、65歳以上で介護が必要となる主な原因は、加齢や栄養不足、不活動などが引き起こす骨折・転倒、関節疾患、高齢による衰弱といったサルコペニア、フレイル※3関連と言われています。これら課題に対し、8PNは筋肉へのアミノ酸の取込を促進し、筋萎縮を抑制するという「栄養」と「運動」の両側面での効果が期待できます。平均寿命と健康寿命の差を縮め、自分にとって好ましく年齢を重ねられる“Better Aging®”の実現に貢献します。

※1 加齢に伴う筋肉量の減少および筋力低下のこと ※2 令和7年版高齢社会白書の令和4年データより抜粋 ※3 加齢により心身が衰えた状態（虚弱、老衰、脆弱）のことでサルコペニアよりも広い範囲を含む概念

Smart

スマート事業



事業内容

スマート事業は、主にエレクトロニクス市場に向けた素材・ソリューションを提供しています。ファンクショナルプロダクツ事業では、世界的にもユニークな製法を持つ脂環式エポキシや、カプロラクトン誘導体を扱っています。当社が長年培った有機合成技術を基盤に、EVモーターの絶縁体や次世代ディスプレイ用途で幅広く使用される他、半導体基板素材としても使用されています。アドバンストテクノロジー事業では、半導体製造工程で使用される高機能なフォトレジスト材料や電子材料向け溶剤、スマートフォン・タブレットから車載用途まで、各種ディスプレイに求められる防眩性や強度を持つ機能フィルムを製造しています。

主要な事業	主要な製品
ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
アドバンストテクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、機能フィルム

ダイセルグループの強み

顧客や市場のニーズに応えるマーケットイン型のソリューション提供	合成・配合などの材料設計や、コーティング・印刷・樹脂成形といった加工技術を活かし、エレクトロニクス市場に素材から部材まで様々なソリューションと価値を提供
ユニークな製法による世界シェアNo.1の脂環式エポキシ	世界唯一の特徴的な製法による高品質な脂環式エポキシを製造。金属腐食や、クラックの原因となる塩素を含まない製法により、高品質・高性能で、電子材料やEVモーターの絶縁体などのモビリティ材料にも対応
安定供給の継続と高度化する要求への対応	半導体業界の高い品質要求レベルに継続的に対応できる技術力と安定した供給能力を保有。その実績から構築された信頼関係を基に、顧客と密着した製品開発を可能とし、さらに高度化する新たな要求に対応

認識している事業環境

機会	リスク
- IoT・AI・5G時代の本格到来による半導体市場の拡大 - 高精細化や高耐久性、折り曲げ折りたたみ可能、曲面構造など新しい技術の普及に伴うディスプレイ市場の拡大 - 電気自動車の普及 - PFAS規制によるフッ素・シリコンフリー素材への代替	- 中国経済の不透明感 - 半導体材料市場における、海外品の台頭による低価格化や米中貿易摩擦の激化による展開可能市場の制限 - 顧客の開発・生産拠点の海外進出による国内市場の縮減 - 欧州化学品庁のエポキシに関する規制強化の動き

業績ターゲット、設備投資額・減価償却費

2024年度実績				2025年度計画*			
売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費	売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費
373億円	△8億円	23億円	28億円	405億円	14億円	40億円	25億円

※ 2025年度計画には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

事業環境と中期戦略の進捗

■ファンクショナルプロダクツ

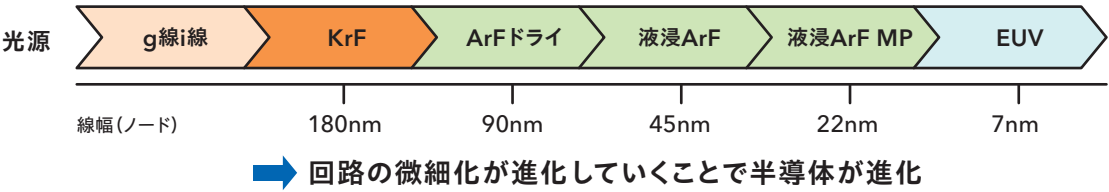
当社の脂環式エポキシは、他にはない特長を持つ製品であり、その強みを生かして新たな市場を開拓し、差別化を図っていきます。当製品は、競合素材と比べて高い耐熱性を持ち、また低粘度で作業性に優れています。さらに、ダイセル独自の製法により不純物が少なく、電子機器の故障原因となる塩素を含まないため、品質の信頼性や耐久性が求められる電材用途で多く採用されています。当社のこの強みを活かし、既存市場である電子材料や液晶パネル市場での拡販を進めるとともに、重電やパワーモジュール向け絶縁用途の開発を進め、新たな市場での販売拡大を図ります。また、アドバンストテクノロジー事業と共に半導体市場へも脂環式エポキシを投入し、事業拡大に取り組んでいきます。

カプロラクトン誘導体は、既存市場のウレタン用途や自動車向け塗装保護フィルム用途での拡販に取り組むとともに、欧米市場では既存市場に加えて新規用途発掘による拡販を行い、シェアアップを狙う方針です。

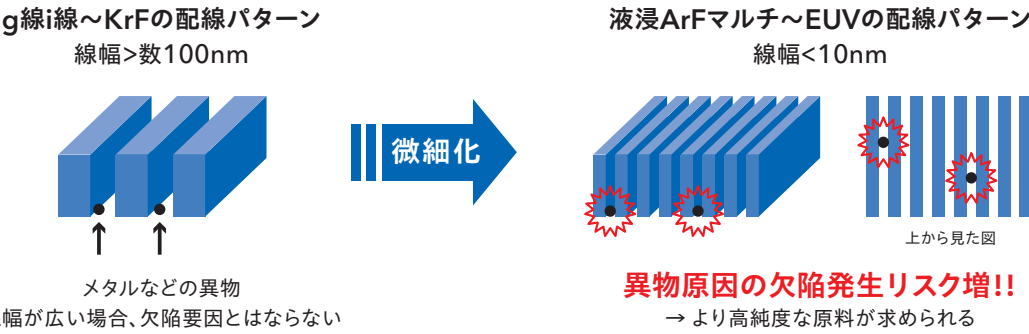
■アドバンストテクノロジー

当社では、年率10%の成長を見込む半導体市場の需要を確実に取り込み、最先端のニーズに即した半導体関連事業を強化していきます。具体的には、電子材料向け溶剤において、2024年度から回復基調にある半導体市場がさらに拡大する中で、需要を確実に捉え、販売を拡大していきます。フォトレジスト材料においても、伸長しているAI用途での需要拡大に向けて拡販を計画しています。さらに当社のレジストポリマーは主に液浸ArF向けですが、半導体は回路の微細化により性能が向上するため液浸ArFよりもさらに線幅（ノード）が狭い、EUV露光の採用が拡大しています。当社はこれらに対応すべく、顧客と共にEUV向けレジストポリマーの開発を進めており、当社のモノマーからの一貫生産による、半導体に適した高い品質管理と安定した供給を強みに、顧客ニーズにあった新製品の投入にも注力していきます。

半導体の進化と線幅（ノード）の変遷



半導体微細化に伴う原料の高純度化（イメージ）



今後に向けて

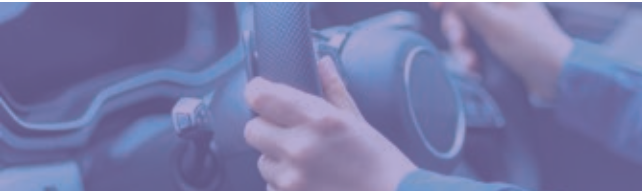
半導体市場の成長トレンドを捉え、競争優位性のある製品を提供し、事業拡大を図る

現在、当社は半導体製造の前工程において、電材溶剤やレジストポリマーを提供しています。これに加えて、今後は先端半導体の後工程へも当社製品を投入し、半導体製造工程全体への製品採用を目指します。

前工程においては、半導体製造のフォトリソグラフィープロセスに欠かせないレジスト溶媒やシンナーとして使われる高沸点溶剤を提供しており、当社のPGMEA (MMPGAC) は半導体フォトレジスト業界で国内トップクラスのシェアを誇っています。今後さらなる事業拡大を図るためには、先端半導体製造の後工程へいち早く参入することが重要であると考え、技術の進化が急速に進む半導体業界において、迅速に顧客ニーズに応えることが将来の競争力強化につながります。当社は、この後工程へ脂環式エポキシ、フォトレジスト材料等を投入し、当社の技術を活かした製品ラインナップを幅広く市場に展開することで、さらなる事業拡大を図ります。

Safety

セイフティ事業



事業内容

自動車の衝突を感知してから数ミリ秒でエアバッグを膨らませ、乗員や歩行者の命を守る自動車エアバッグ用インフレーター(ガス発生装置)が当事業の主力製品です。エアバッグシステムの重要部品として、高い評価を受けています。インフレーターで培った瞬時に作動する駆動力/推進力をONE TIME ENERGY®と名付け、エアバッグ以外の用途にも展開しています。緊急時に安全かつ瞬時に高電圧・大電流を遮断することが可能な電流遮断器もその一例で、電気自動車(以下、EV)や、AIの普及などにより自動化が進む様々な産業への展開が期待されています。

主要な事業	主要な製品
モビリティ	自動車エアバッグ用インフレーター
インダストリー	電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器(PGG)

ダイセルグループの強み

長年蓄積したインフレーター技術	自動車エアバッグ用インフレーターを事業化した1988年より、ガス発生剤から一貫生産し、高い信頼性で人々の安全に貢献
トヨタ生産方式×ダイセル式生産革新	ダイセル式生産革新の考え方をベースにトヨタ生産方式を応用し、高い品質と生産性を追求
統合管理システム(画像解析システム)	株式会社日立製作所と共同開発した統合管理システムにより、シリアル単位の品質管理を実現。このシステムを標準装備としてグローバルに展開中。高いレベルの品質管理をベースにお客様との強固な信頼関係を構築

認識している事業環境

機会	リスク
■ 新興国での自動車生産の成長 ■ 自動車の安全性能強化に対するニーズの高まり ■ 中国系電気自動車メーカーの台頭 ■ EVや再生可能エネルギーなどカーボンニュートラル実現を目指した技術の進展・普及	■ 米国の政権交代による影響 ■ 中国経済の不透明感 ■ 自動運転技術などアクティブセイフティの進化に伴い求められる機能・性能の変化 ■ EV市場の成長鈍化

業績ターゲット、設備投資額・減価償却費

2024年度実績				2025年度計画*			
売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費	売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費
976億円	39億円	110億円	71億円	1,010億円	64億円	120億円	80億円

※ 2025年度計画には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

事業環境と中期戦略の進捗

当社グループの主力製品である自動車エアバッグ用インフレーター事業は、現在、日本・中国・タイ・インド・米国・ポーランドに製造拠点を構えグローバル展開しています。特に、自動車生産台数や一台当たりのエアバッグ搭載数が増加しているインド・中国市場に注力しています。自動車生産台数は2030年までにグローバルで約6%(対2024年比較)※の成長を見込んでおり、特にインド・中国市場では、自動車の安全評価基準の強化により前面衝突用エアバッグに加えて側面衝突用エアバッグの搭載数が引き続き増加することが期待されています。このような中、当社グループは、2023年10月にインドに生産拠点を設置して前面衝突用インフレータの量産を開始し、さらに2024年9月には側面衝突用インフレータの量産も開始した他、中国拠点においても継続して生産ラインを増設するなど、拡大するエアバッグ需要を取り込むべく生産能力を増強しています。

また、現中期戦略期間においては収益改善や競争力強化を図るため、生産地統廃合や、車種ごとに異なっていたインフレータの品種統合(カタログ化)を進めてきました。一方で、米国拠点においては、2拠点から1拠点到生産地統合を行いました。コロナ禍以降、インフレーションの加速に伴い労務費が高騰し、人の定着率が下がったため、生産性・収益性の改善が課題となっていました。2024年度はそれに対応するため、本社、各拠点、顧客との連携を強化しながら、人の適正配置や自動化などの作業効率化に取り組みました。その結果、2024年度第4四半期には生産性改善により、収益性が向上しました。2025年度においても引き続き生産性改善に取り組み、さらなる業績向上を目指します。加えて、米国拠点にて海外から輸入している部品や原材料の現地調達化を進めることで、米国の追加関税にもフレキシブルに対応できる体制を構築し、競争力を強化していきます。

※ 自動車生産台数の成長率…S&P調べ

今後に向けて

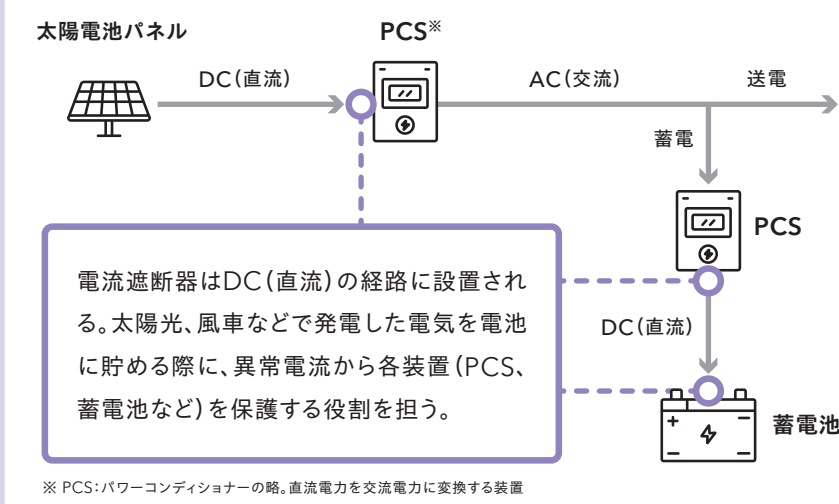
当社は、自動車エアバッグ用インフレーターで培った技術と高い信頼性を活かし、瞬時に電流を遮断する電流遮断器を開発・製造しています。現在、自動車メーカー各社は、電気自動車の航続距離の延長や高速充電の実現に向け、バッテリーの大容量化・高電圧化を加速させています。そのような状況の中、交通事故や故障時の乗員の感電や二次災害を防止するため、瞬時かつ確実に電流遮断できる装置として、本製品の需要が高まっています。欧州においてはEV向けの高電圧用電流遮断器を受注し、2025年度中に量産開始する予定です。今後は各国の自動車メーカーのEV戦略を注視しながら、マーケティング体制を強化し、拡販に注力していきます。

自動車用途以外では、再生可能エネルギー発電向けや有人eVTOL(電動垂直離着陸機)向けに、電流遮断器の需要が高まっています。再生可能エネルギー発電については、近年、中国では2030年のカーボンピークアウトに向けた行動計画が進められており、太陽光発電や風力発電などの開発計画が加速しています。加えて、再生可能エネルギー発電システム、パワーコンディショナー、エネルギー貯蔵システムのバッテリー電圧や容量の増加に伴い、過電流による火災対策として、電流遮断器へのニーズが急速に高まっています。顧客との共創による新規事業創出を目指し、産業用途の市場調査を進めるとともに、開発に注力していきます。また、2025年度中に有人eVTOL向け電流遮断器の生産を開始する予定です。深刻な交通渋滞の解消や環境負荷の低減に貢献する有人eVTOLは、現在、多くの注目を集めており、中長期的に高い成長性が期待されています。自動車分野で磨き上げたONE TIME ENERGY®技術を武器に、今後、受注拡大を目指していきます。



電流遮断器(Pyro-Fuse)

再生可能エネルギー発電用途における想定使用箇所



緊急時に電流を遮断して火災等を防ぐ

①回路異常・過充電



②短絡



Materials

マテリアル事業

事業内容

マテリアル事業は幅広い産業に様々な素材を提供しています。当社は、多様な用途を持つ酢酸の国内唯一のメーカーで、酢酸を中心に、酢酸を原料とする化学品、木材や綿花から採れるセルロースと無水酢酸を原料とした酢酸セルロース、これを紡糸したアセテート・トウから構成されるアセチルチェーン(右ページ参照)を構築しています。光学フィルムに使用される三酢酸セルロース(TAC)は世界トップシェアで、アセテート・トウも世界的に高いシェアを持っています。これらの他にも、長年培った有機合成技術を基盤に様々な化学品を製造販売しており、化粧品原料の1,3-ブチレングリコール(1,3-BG)は、特徴ある無臭グレードが高い評価を受けています。

主要な事業	主要な製品
アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
ケミカル	光学フィルム用酢酸セルロース(TAC)、酢酸セルロース、1,3-ブチレングリコール(1,3-BG)、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン

ダイセルグループの強み

ダイセル式生産革新による最適なプラント運転	ムダ・ロスを徹底的に排除した最適なプラント運転により、製造プロセスの省エネ・省資源、高品質、安定供給を実現 WEB ダイセル式生産革新 https://www.daicel.com/daicel-production-innovation/
アセチルチェーンを支える酢酸循環システム	アセチルチェーンを支えるシステムとして、その核となる酢酸を製造するだけでなく、顧客や当社グループ工場で副生される酢酸を回収・精製し、再利用する循環システムを確立
技術力を駆使したテクニカルサポート	天然素材であるセルロースの物性コントロール・加工技術の蓄積を駆使し、顧客ニーズに応じた酢酸セルロースおよびアセテート・トウのテクニカルサポートをグローバルに展開

認識している事業環境

機会	リスク
- バイオマス素材・海洋生分解性素材への期待 - 経済成長に伴う様々な製品需要増加 - 加熱式たばこの需要増加	- 中国経済の不透明感 - 原燃料価格の変動 - 新興国を中心とする競合メーカーの台頭

業績ターゲット、設備投資額・減価償却費

2024年度実績				2025年度計画*			
売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費	売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費
1,834億円	296億円	115億円	199億円	1,815億円	230億円	240億円	180億円

※ 2025年度計画には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

事業環境と中期戦略の進捗

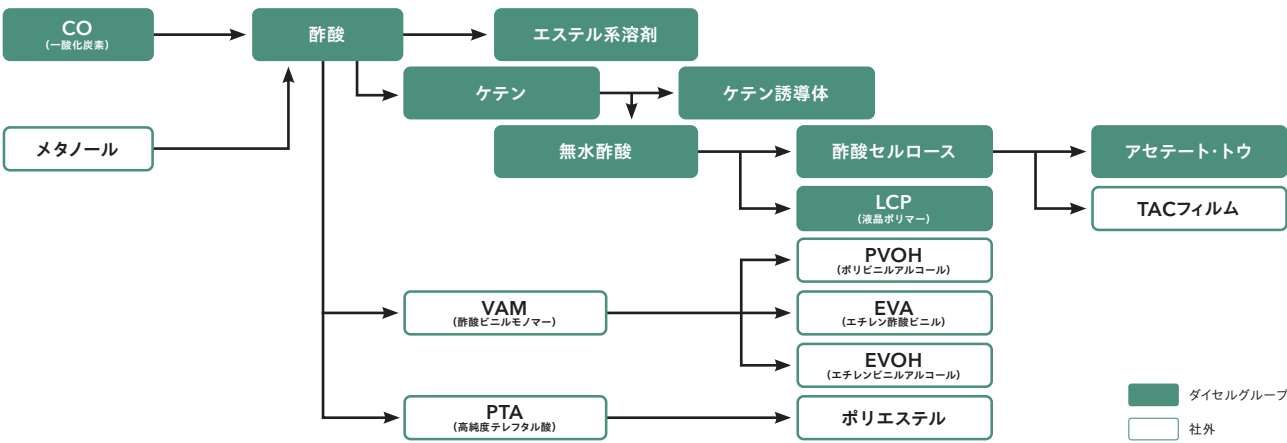
■アセチル

アセチル事業の主力製品で、主にたばこフィルター用途に使われるアセテート・トウは、中期戦略期間において「供給能力拡大とサプライチェーンの強化」を掲げ、デボトルネッキングなどにより製造量を増やし、旺盛な需要を確実に捉え、収益拡大に貢献してきました。

一方で、2024年2月に稼働した新たな酢酸の原料プラントである一酸化炭素(CO)プラントにてトラブルが発生し、2024年度の製造に影響がでました。COプラントは、老朽化更新に伴い原料をアスファルトから石炭に切り替えましたが、原料となる石炭の産地変更を行ったため、トラブルが発生していました。これらの問題に対し当社は対策を講じ、2025年度には問題を解消する見込みです。今後は、安定運転の継続に加え、原料切り替えによる比例費メリットを享受し、競争力強化につなげていきます。

これにより、ダイセルのアセチルチェーンをさらに強固なものとし、引き続き基盤事業として今後の成長を支えていきます。

アセチルチェーン



■ケミカル

主力製品である酢酸セルロースにおいては、製法転換による収益力向上やCAFBL®などの新規用途開発に取り組んでいます。液晶ディスプレイの保護フィルムおよび位相差フィルムの原料に使用される光学フィルム用の三酢酸セルロース(TAC)は、他素材との競争が激化していますが、位相差フィルム用途におけるTACのシェアは底堅く、並行して海外TACフィルムメーカーへの拡販に取り組むことで、TAC市場でのシェアを維持していきます。

また、主に化粧品原料向けの1,3-BGにおいては、国内海外共に販売が好調であり、無香料の基礎化粧品を中心に当社の無臭グレードが評価されており、2025年度も引き続き、シェアを堅実に維持していく計画です。海外市場への拡販も引き続き進め、さらなる成長を目指します。

📖 p. 39 タスクフォースチームで挑む、生分解性プラスチックCAFBL®の新市場展開

今後に向けて

アセテート・トウ ダイセルグループ全体のROIC向上に貢献

アセテート・トウの主用途であるたばこフィルターの需要動向は、先進国での減少傾向が続く一方、人口増加や経済成長を背景として新興国や途上国での需要が増加しており、世界全体では堅調に推移しています。また、新興国市場でのたばこフィルター装着率の向上やフィルターの長尺化、加熱式たばこ用途の需要増加の影響などもあり、アセテート・トウの需給はウェルバランスとなっています。

このような環境において当社は、主要顧客との複数年契約など安定的な取引関係の強化に加え、デボトルネッキングなどの投資なき増産によって販売数量を伸ばしながら、フル製造フル販売という状態を維持しています。また、既存のダイセル網干工場、大竹工場に加え、2025年4月に100%子会社化した富山フィルタートウも含めた3拠点の生産を統合管理し、市場環境の変化に迅速に対応した最適生産体制を構築し、生産の安定化、コストダウンをさらに進めます。

酢酸セルロース 製法転換による品質や生産性の向上、収益力の強化を図る

アセテート・トウの主原料であり、主力製品の一つでもある酢酸セルロースの製法転換により、環境負荷やコストの低減とともに品質や生産性の向上を図り、原材料や製品在庫の縮減などアセットライトを推進します。

天然物由来のパルプを原料としている酢酸セルロースは、原材料に起因する反応性の低さや不純物の生成といった課題がありました。生産の前処理工程や後処理工程を改善することで、これらの課題を解決し、品質や生産性の向上、原材料品種の統合、在庫圧縮などが可能になり、事業全体の収益力強化を進めます。

Engineering Plastics

エンジニアリングプラスチック事業

事業内容

当事業の売上の大部分を占めるのが、グループ企業のポリプラスチックスです。ポリプラスチックスは、機械的強度、耐熱性、耐薬品性など特殊な機能を持つエンジニアリングプラスチックのリーディングカンパニーで、自動車の軽量化や電装化、電子機器の高性能化などに貢献しています。ダイセルミライズ株式会社（以下、ダイセルミライズ）は、近年急速に普及が進むEVのリチウムイオンバッテリー用に注目される水溶性高分子や、日用品から自動車まで幅広い用途を持つAS樹脂など、多様な商材を様々な産業に展開しています。

主要な事業	主要な製品
ポリプラスチックス	ポリアセタール (POM)、ポリブチレン・テレフタレート (PBT)、ポリフェニレン・サルファイド (PPS)、液晶ポリマー (LCP)、環状オレフィン・コポリマー (COC)
ダイセルミライズ	水溶性高分子 (CMC)、包装用バリアフィルム、AS樹脂

ダイセルグループの強み

新しいアプリケーションの開発力とグループシナジー	エンブラ ^{※1} のエキスパート集団として、時代と共に移り変わる主要産業（電機や自動車産業など）や社会のニーズに応えるアプリケーションをお客様と共に開発。さらに、ポリプラスチックス、ダイセルミライズ、ポリブラ・エボニック ^{※2} の幅広い製品ラインナップを掛け合わせ、グループとして最適なソリューションを提供
主要地域に広がるテクニカルソリューション体制	日本・中国・台湾・タイ・米国・ドイツの主要地域にある各テクニカルソリューションセンターが連携。素材の処方設計から成形加工支援まで、グローバルにきめ細かで一貫したソリューションを提供
高度な製造技術と、同一品質のクイックデリバリー	50年以上にわたり蓄積してきたエンブラの製造技術に、ダイセル式生産革新を掛け合わせ、さらなる生産高度化を推進。11カ国32拠点のネットワークを活かし、それらをグローバルに同一品質かつクイックデリバリーで提供

※1 エンブラ…エンジニアリングプラスチック ※2 ポリブラ・エボニック…ポリプラスチックスとドイツのエボニック社との合併会社。当社の持分法適用会社。

認識している事業環境

機会	リスク
- 電気自動車や自動運転技術の普及 - AIや次世代通信によるインフラ・端末・サービスの変化 - バイオマス素材への期待やサーキュラー・エコノミーへの関心の高まり - PFAS規制によるフッ素・シリコンフリー素材への代替	- 世界経済の不透明感 - グリーンフレーションによる原料高騰と調達懸念 - 新興国を中心とする競合メーカーの台頭 - 欧州における環境を含む様々な規制の強化 - 急激な景気変動に伴う需給バランスの変化

業績ターゲット、設備投資額・減価償却費

2024年度実績				2025年度計画 [※]			
売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費	売上高	営業利益	設備投資額	減価償却費
2,480億円	270億円	433億円	95億円	2,560億円	221億円	290億円	125億円

※ 2025年度計画には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

中期戦略の進捗と今後の取り組み

ポリプラスチックスは日本初のエンブラ専門メーカーとして、半世紀以上にわたり世界のモノづくりを支えてきました。中期戦略期間においては、供給能力増強と拡販に注力し、グローバル市場での競争力を高めてきました。

■POM

POMは、主に自動車、家電、産業機器などの素材として幅広く使用されています。特に中国市場において旺盛な需要が継続しており、それに応えるべく日本やマレーシアのプラントからも輸出しています。このような状況を受け、現在、中国における生産能力の増強を図っています。



2024年11月にDP Engineering Plastics (Nantong) Co., Ltd (中国)にて新プラントを稼働

2024年度においては中国の南通経済開発区の環境方針により既存のプラント（年産6万トン）を停止させ、2024年11月より第1期新プラント（年産9万トン）の稼働を開始しました。さらに、2026年度にも第2期増産（年産6万トン）を計画しています。これにより、堅調に市場成長を続ける中国国内の需要をカバーするとともに、リードタイムの改善や輸送コストの削減などを図り、より顧客ニーズに対応できる生産体制を構築していきます。

今後のグローバルな拡販の戦略としては、中国自動車メーカーへのアプローチ強化、医療分野の開拓などに注力しています。中国拠点では、中国自動車メーカーの開発スピードに対応すべく、テクニカルサポートだけでなく樹脂の処方開発を担当するスタッフを現地に配置し、顧客と密接に連携できる体制を構築するなど、スベックイン活動の強化を図っています。これにより、直近では顧客からの評価が高まり、受注獲得につながるケースが増えてきています。また、新たな分野として医療分野へも注力しており、欧州の大手医療機器メーカーの製品に採用されるなど成果が出始めています。この実績を基盤に、さらなる医療用途での拡販を進めていきます。

■LCP

LCPは、主にPC、スマートフォン、サーバーのコネクターなど電子部品用途に使用されており、グローバルトップシェアを誇っています。従来は日本の富士工場で生産していましたが、今後の需要増加を確実に取り込むため、台湾に新プラント（年産5千トン）を新設し、2025年2月より稼働開始しました。主要用途の電子デバイスやAIサーバーの市場成長が追い風となり、LCPのグローバル販売数量は大きく増加する見込みです。さらに富士工場に生まれた余力を活用し、将来の成長機会を捉えるべく新規ポリマーの開発を強化していきます。また、LCPの低誘電特性、高流動特性が評価され、直近ではAIサーバーのGPU (Graphics Processing Unit) ソケットや冷却ファンへの採用が増えており、需要が急拡大しています。既存市場に加え、今後、さらに成長が期待されるAIサーバー向けなどに積極的に拡販するとともに、より付加価値の高いソリューションを提供していきます。



LAPEROS®LCPが使われるコネクター

■COC

環境保全への関心が高い欧州では、各国政府がプラスチック廃棄物に関する規制を強化しており、飲料用ペットボトルのリサイクルではボトルやラベルといった樹脂ごとの分離が必要です。ポリプラスチックスのCOCは、印刷特性、収縮特性、接着性を保持した、比重の小さいラベル素材として用いられています。COCを使用したラベルは水に浮くため、素材の比重差によりボトル部分と分離させやすくリサイクル率の向上に貢献します。近年、このペットボトルラベル用途としてCOCの需要が急速に高まっており、2026年度にはドイツで新プラント（年産2万トン）の稼働を開始する予定です。増産による高品質な製品の安定供給を実現するとともに、ペットボトルラベルなどの環境対応包装材用途を中心にさらなる拡販に取り組んでいきます。



ペットボトルのリサイクル率の向上に寄与